

「さらにすぐれたいけにえ」

ヘブル 9：11～28

1. はじめに

(1) この手紙が書かれた理由を再確認する。

①信仰が後退しつつあった第 2 世代のメシアニック・ジューたちへの励まし

(2) ユダヤ教の 3 つの柱は、天使、モーセ、レビ的祭司である。

①御子は、天使に勝るお方であることが証明された。

②御子は、モーセに勝るお方であることも証明された。

③御子は、アロンに勝るお方であることの証明が続いている。

(3) これまでの文脈

①地上の幕屋で行なわれた古い契約の祭儀は、限界を内包していた。

②古い契約は、よりすぐれた新しい契約を予期していた。

③新しい契約の仲介者であるキリストの奉仕は、さらにすぐれたものである。

④今回は、キリストの犠牲がもたらしたものについて学ぶ。

2. アウトライン

(1) 永遠の贖い (11～12 節)

(2) 聖め (13～14 節)

(3) 新しい契約 (15～22 節)

(4) 天の聖所での奉仕 (23～28 節)

結論：

(1) 天の聖所の聖め

(2) キリストの 3 つの現れ

新しい契約の仲介者であるキリストが何をもたらしたかを学ぶ。

I. 永遠の贖い (11～12 節)

1. 11～12 節

Heb 9:11 しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事がらの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、

Heb 9:12 また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです。

(1) キリストは、すばらしい事がらの大祭司である。

①すばらしい事がらとは、メシア預言の祝福である。

*キリストを信じる者に約束された大いなる祝福のことである。

②それはすでに成就している。

(2) 奉仕の場の対比

①レビ的祭司は、人間が造った幕屋で奉仕をする。

*地上の材料が使用されている。

*罪ある人間の手によって建てられた。

②キリストは、天の幕屋で奉仕をする。

*神の臨在の場である。

(3) いけにえの対比

①レビ的祭司は、やぎと子牛との血を、罪の贖いとして毎年献げる。

*動物の血は、罪を覆うだけで、罪の解決にはならない。

*いわば、一年間の贖いである。

②キリストは、ご自分の血によって罪の贖いを成し遂げた。

*それは、ただ一度限りのことである。「once for all」。

*それは、永遠の贖いである。

*過去の人にも、今生きている人にも、将来の人にも、適用される。

*信仰によって罪の赦しを受け取る人にも適用される。

II. 聖め (13～14 節)

1. 13～14 節

Heb 9:13 もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それが聖めの働きをして肉体をきよいものにするすれば、

Heb 9:14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とするのでしょうか。

(1) キリストの犠牲と律法の祭儀の対比（赤い雌牛の規定）

①民 19 : 17

Num 19:17 この汚れた者のためには、罪のきよめのために焼いた灰を取り、器に入れて、それ

に湧き水を加える。

- ②イスラエル人は、死体に触れると、7 日間儀式的に汚れる。
- ③赤い雌牛を焼いた灰を清い水に混ぜ、それを汚れた人に3日目と7日目に注ぐ。
- ④それによって、その人は聖められる。
- ⑤灰は、「罪のためのいけにえ」の凝縮物とされた。
- ⑥これは、いつでも簡単に用いることができた。
- ⑦赤牛一頭の灰が、数百年間の必要をまかなった。
- ⑧ユダヤ人の歴史の中で、6 頭が必要とされただけだと言われている。
- ⑨神殿の再建と赤の雌牛の必要性

(2) もし、やぎと雄牛の血、赤牛の灰にそれほどの力があるとしたら、キリストの犠牲の力はいかばかりであろうか。

- ①キリストの血は、罪のない完璧な「神の小羊」の血である。
- ②キリストはご自身の血を、聖霊によって父なる神におささげになった。
 - *キリストの死の背後には、聖霊の関与があった。
- ③その血は、私たちの良心をきよめる。
- ④死んだ行いから私たちを離れさせる。
 - *死んだ行いとは、自力で聖めを得ようとする空しい努力のことである。
- ⑤私たちを生ける神に仕える者とする。

Ⅲ. 新しい契約（15～22 節）

1. 15 節

Heb 9:15 こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができるためなのです。

- (1) キリストは、新しい契約の仲介者となられた。
 - ①仲介者とは、敵対する当事者の間に立って、和解のために労する者である。
 - ②キリストは、父なる神と私たち罪人たちの間に立つ仲介者となってくださった。
- (2) キリストは、父なる神と私たちの間の障害（さまたげ）を取り除いてくださった。
 - ①キリストの死によって、モーセの律法の要求は満たされた。
 - ②それゆえ、召された者たち（信じる者たち）は、永遠の資産の約束を受け取るできるようになった。
 - ③召された者たちとは、旧約時代の聖徒も新約聖書の聖徒も含む概念である。

2. 16～17 節

Heb 9:16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。

Heb 9:17 遺言は、人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は、決して効力はありません。

(1) 「永遠の資産の約束を受ける」という言葉から、遺言の話が出てくる。

①遺言の効力が発効するためには、遺言者の死が必要である。

②遺言者の死を証明するのは、死亡証明である。

3. 18～21 節

Heb 9:18 したがって、初めの契約も血なしに成立したわけではありません。

Heb 9:19 モーセは、律法に従ってすべての戒めを民全体に語って後、水と赤い色の羊の毛とヒソプとのほかに、子牛とやぎの血を取って、契約の書自体にも民の全体にも注ぎかけ、

Heb 9:20 「これは神があなたがたに対して立てられた契約の血である」と言いました。

Heb 9:21 また彼は、幕屋と礼拝のすべての器具にも同様に血を注ぎかけました。

(1) シナイ契約の発効も、契約の血を必要とした。

①古代中近東では、契約は血を流すことによって締結された。

②契約の血は、契約条項の履行を保証するものとなった。

(2) 出 24 : 1～11 とヘブ 9 : 15～18 を総合的に要約すると、以下のようになる。

①祭壇（神を象徴している）に血が注ぎかけられた。

②契約の書に血が注ぎかけられた。

③民の全体に血が注ぎかけられた。

④血は、契約の当事者を契約条項に結びつけた。

⑤神は、民が契約を守るなら祝福すると約束された。

⑥民は、契約違反に対して自らの命を差し出した。

＊「これは神があなたがたに対して立てられた契約の血である」

(3) 礼拝のための器具にも血が注ぎかけられた。

①罪ある人間が触れる物は、すべて汚れるという教訓が語られている。

4. 22 節

Heb 9:22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。

(1) 血を注ぎ出すことなしには、罪の赦しはない。

①これは、古い契約に関しても、新しい契約に関しても言える真理である。

②マタ 26 : 28

Mat 26:28 これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

IV. 天の聖所での奉仕 (23～28 節)

1. 23～24 節

Heb 9:23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられる必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。

Heb 9:24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現れてくださるのです。

(1) 地上の幕屋と天の幕屋の対比

- ①地上の幕屋は、天の幕屋の型である。
- ②地上の幕屋は、いけにえの血によってきよめられる必要があった。
- ③地上の幕屋はコピーであるので、動物の犠牲で十分であった。
- ④しかし、天にある幕屋のきよめのためには、さらにすぐれたいけにえが必要。

(2) 「さらにすぐれたいけにえ」

- ①「better sacrifices」(複数形)
- ②キリストの犠牲は、一度限りのものである。
- ③ここでの複数形は、「尊厳の複数形」と呼ばれるものである。
- ④キリストの犠牲は、古い契約に基づく数々のいけにえを終わらせた。

(3) キリストが大祭司として奉仕しているのは、模型の幕屋でなく、本物の幕屋。

- ①私たちのために、神の御前で執りなしをしておられる。
- ②それなら、なぜ模型（ユダヤ教）に回帰する必要があるのか。

3. 25～26 節

Heb 9:25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所に入る大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることにはなさいません。

Heb 9:26 もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。

(1) キリストの犠牲は、ただ一度だけである。

①苦難を繰り返す必要はない。

(2) キリストは、世の終わりに来られた。

①古い契約が、人間の罪性と無力さを完全に証明してから。

(3) キリストは、罪を取り除くために来られた。

①これは、永遠の贖いである。

(4) キリストは、ご自身をいけにえとして献げるために来られた。

①私が受けるべき罰を、その身に受けてくださった。

4. 27～28 節

Heb 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

Heb 9:28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

(1) ここでは、関心が終末論に向かっている。

①人間の運命は、一度死ぬことと、死後にさばきを受けるということ。

②キリストは、この運命を変えてくださった。

(2) キリストの来臨

①一度目は、多くの人の罪を負うために。

②二度目は、来臨を待ち望んでいる人々の救いのために。

*これは、携挙を指す言葉である。

結論：

1. 天の聖所の聖め

(1) なぜ天の聖所の聖めが必要なのか。

①何かの理由で、天の聖所が汚された。

(2) サタンの反逆と関係がある。

①ヨブ 15 : 15

Job 15:15 見よ。神はご自身の聖なる者たちをも信頼しない。／天も神の目にはきよくない。

②イザ 14 : 12～14

Isa 14:12 暁の子、明けの明星よ。／どうしてあなたは天から落ちたのか。／国々を打ち破

った者よ。／どうしてあなたは地に切り倒されたのか。

Isa 14:13 あなたは心の中で言った。／『私は天に上ろう。／神の星々のはるか上に私の王座を上げ、／北の果てにある会合の山にすわろう。

Isa 14:14 密雲の頂に上り、／いと高き方のようになろう。』

③エゼキエル 28：11～19

Eze 28:18 あなたは不正な商いで不義を重ね、／あなたの聖所を汚した。／わたしはあなたのうちから火を出し、／あなたを焼き尽くした。／こうして、すべての者が見ている前で、／わたしはあなたを地上の灰とした。

2. キリストの 3 つの現れ（英語では、appear という言葉が 3 度出てくる）

(1) 26 節（過去形の救いに関係している）

Heb 9:26 もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。

(2) 24 節（現在形の救いに関係している）

Heb 9:24 キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現れてくださるのです。

(3) 28 節（未来形の救いに関係している）

Heb 9:28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。